

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査書

(1) 取組名	日本の豊復活プロジェクト		
(2) 実施団体名	熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会	(3) 対象地域	熊本県八代市・いぐさ・畳表生産地域
(4) 代表団体名	八代市	(5) 推薦団体名	

(6)実施した取組の内容	取組①	地域ブランドの構築	
	実施主体	八代市	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		<p><b>①地域ブランド・プレミアム戦略(付加価値)</b>  <b>優良品種の栽培・加工講習会</b>                      ・時期:現地(栽培)講習会(年1回)・加工講習会(年1回)                      ・場所:い業研修所及び現地                      ・目的:優良品種の栽培から加工の過程においては、高度な技術を要し、安全・安心な畳表を消費者に提供するため栽培・加工講習会を実施する。</p> <p><b>②地域ブランド・コミュニケーション戦略(情報伝達)</b>  <b>子どもたちに「畳のよさ」を普及一教材の作成</b>                      ・作成冊数:1000冊+HP掲載                      ・目的:大学と連携し、子どもたちに「畳のよさ」を普及するため教材を作成し、配布及びHP上に掲載し、必要に応じてダウンロードして使用できるようにする。</p> <p><b>学校へ出前講座</b>                      ・時期:年4回(4クラス)                      ・場所:市内小中学校                      ・目的:大学と連携し、学校へ出向き出前講座を実施する。</p> <p><b>産地情報や特産品のPR</b>                      ・目的:産地情報や特産品のPRをHP上で発信することで、販売力強化を図る。</p> <p><b>新商品及び販売促進グッズの開発</b>                      ・目的:熊本い草デザイン開発研究会や民間企業と連携を図りながら、新商品及び販売促進グッズの開発を行う。</p> <p><b>③地域ブランド・ロイヤルティ戦略(顧客満足)</b>                      ・内容:アンケート調査の実施(畳表の流通実態調査)                      ・目的:ロイヤルユーザー、一般ユーザー、潜在ユーザーの把握を行う。熊本畳表に対して、どのような期待を抱き、どのような形で満足し、あるいはどのような不満を抱いているかを把握し、ブランドの価値を高めていく。</p> <p><b>④地域ブランドの管理</b>                      ・目的:くまもと畳表の地域ブランドの管理体制を整備し、地域団体商標登録を行う。                      統一産地表示ガイドラインに基づくブランド管理を行う。</p>	<p><b>①地域ブランド・プレミアム戦略(付加価値)</b>  <b>優良品種の栽培・加工講習会</b>                      ・時期:現地(栽培)講習会(3回予定)・加工講習会(5回 8/20、9/3~4、9/4、9/5、9/10)                      ・場所:[現地(栽培)講習会]各校区公民館、[加工講習会]い業研究所、いぐさ畳表集荷場                      ・結果:現地(栽培)講習会(200名の参加予定)、加工講習会に延べ107名の参加があり、生産者が品種特性を理解し、高品質な畳表の加工技術の向上が図られたことから、くまもと畳表に対する信用が増すものと期待される。</p> <p><b>②地域ブランド・コミュニケーション戦略(情報伝達)</b>  <b>教材の作成…冊子タイトル「たたみのちから」</b>                      ・作成冊数:2千冊(カラーA5版・43P)及びHP掲載(電子書籍)                      ・結果:八代市(1400部)・氷川町(200部)の小学校5年生全員に12月に配布し、地域理解を深めることができた。また、HPにも掲載したことから、全国の畳店より問い合わせがあり、関心の高さが示された。</p> <p><b>学校へ出前講座</b>                      ・時期:12月15日(月)14:10~15:30                      ・場所:八代市立千丁中学校                      ・参加:全校生徒及び保護者を対象に1回実施。                      ・結果:講師として北九州市立大学森田洋准教授を迎え、「イグサと畳の効能と可能性」について講演。出前講座を通じて、「畳の良さ」を理解し、いぐさを見直すきっかけとなった。</p> <p><b>産地情報や特産品のPR</b>                      ・結果:11月に都道府県畳工業組合などへ、「熊本県産畳表の統一産地表示の取り組みについて」のPRチラシ(12万枚)を配布し、新聞掲載(数物新聞・畳新聞)と併せ全国向けに情報発信を行った。全国の畳店等より、事業内容・注文の問い合わせが多く、関心の高さが示された。</p> <p><b>新商品開発・販売促進</b>                      ・作成:エコバッグの作成(2,440枚)、車貼付用マグネットシール(3千枚予定)・梱包紙貼付用シール(3万枚予定)                      ・結果:動く広告として「くまもと畳表」のブランドをPRするとともに、梱包紙にシールを貼付し流通させることで流通業者に対するPRを予定(2月配布予定)。</p> <p><b>③地域ブランド・ロイヤルティ戦略(顧客満足)</b>                      ・内容:アンケート調査(畳表の流通実態調査)                      ・時期:10月23日~11月20日                      ・対象:全国の畳店(2千店をNTTタウンページにより抽出)・回答件数:503店                      ・結果:アンケート結果としては、「お客様からの評判」が最も多く、次いで、「先進性」・「商売上のうまみ」・「高級性」の順となった。この結果を踏まえ、熊本県産畳表の今後の方向性として、「品質力」・「安心・安全」を畳店と消費者に伝えるため、統一産地表示徹底の必要性が分かった。</p> <p><b>④地域ブランドの管理</b>                      ・商標登録:「デザイン」9月12日登録【登録第5165686号】、「文字2種類」10月10日登録【登録第5172233号】、【登録第5172234号】                      ・地域団体商標:9月4日に「くまもと畳表」を申請。                      ・結果:上記の取組に加え、統一産地表示ガイドラインをHPに掲載するとともに、畳表トレーサビリティ(統一産地表示)の全参加農家に対し、統一産地表示ガイドラインの概要版を配布し、地域ブランド管理の徹底を図った。</p>
	取組②	ICTの推進	
	実施主体	八代市	
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果

(6)実施した取組の内容	実施内容、実施結果	<p><b>①生産情報提供システムの構築・運用実験</b>  ・時期：9月～12月  ・対象：八代市のいぐさ生産農家  ・目的：病害虫や気象、警報等の情報提供を、直接携帯電話に発信するシステムを構築し、運用実験を行う。</p> <p><b>②体験農園等の情報発信</b>  ・目的：活性化連絡協議会のHPを通じ、いぐさ栽培・加工体験に関する情報を発信することで、子どもの体験学習や授業の支援を行う。</p>	<p><b>①生産情報提供システムの構築・運用実験</b>  ・時期：1月にシステム構築し周知・登録を2月に予定  ・対象：八代市・氷川町(全農家、営農指導員、普及指導員、行政職員、その他の情報配信希望者)  ・結果：配信登録することで、今後の病害虫や気象警報等の生産情報をリアルタイムで登録者の携帯電話に配信できる体制が整うことに加え、全国の畳店に対し産地情報をメールマガジンで発信するためのシステムを2月に構築(予定)することで、品質向上やブランドPR等の強化が期待できる。</p> <p><b>②体験農園等の情報発信</b>  ・結果：氷川町のHPや情報誌で情報を発信し、多くの参加者があり農業への理解が深まった。</p>
	取組③	<b>畳表トレーサビリティの実証</b>	
	実施主体	八代地域農業協同組合	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	<p><b>①統一産地表示(QRコード付きタグ)の流通</b>  ・時期：9月～3月  ・目的：織機300台にタグ挿入位置自動停止装置を平成20年度の県の補助事業で整備することが決定しており、試験的に30万量を流通させる。(H20.9～H21.3)それにあわせて本事業により実証結果の調査を行う。</p> <p><b>②実証結果の調査</b>  <b>統一産地表示(QRコード付きタグ)に関する問題点の把握</b>  ・対象：統一産地表示の畳表を取り扱った畳店  ・目的：統一産地表示に関する問題点・今後の改善点の把握</p> <p><b>消費者の満足度・流通業界の意見の把握(アンケート調査・意見交換会)</b>  ・場所：関東・関西地方  ・目的：消費者や畳店のニーズの把握を行う。</p>	<p><b>①統一産地表示(QRコード付きタグ)の流通</b>  ・時期：9月～3月  ・結果：258台への織機にタグ挿入位置自動停止装置を「いぐさ・畳表生産体制強化緊急対策事業」(平成20年度県事業)で整備し、農家からの申込みに応じ、生産者名、生産者番号を入れた、タグ52.4万枚を印刷・配布し実証実験を実施。(平成18・19年度に132台の織機にタグ挿入位置自動停止装置を整備済。)</p> <p><b>②実証結果の調査</b>  <b>統一産地表示(QRコード付きタグ)に関する問題点の把握</b>  ・対象：統一産地表示の畳表を取り扱った徳島県・滋賀県・島根県・三重県・広島県  ・結果：畳店に生産者を2名づつ2月に派遣する予定であり、問題点・今後の改善点を把握し今後の事業活動の中で活用していく。</p> <p><b>消費者の満足度・流通業界の意見の把握(意見交換会)</b>  ・時期：11月12日に山梨県畳工業組合(参加者27名)、13日に山形県畳工業組合(参加者27名)、14日に新潟県畳工業組合(参加者27名)  ・結果：産地の現状報告、統一産地表示に関する意見交換を行った。「統一産地表示は是非推進してほしい」「高齢者は操作がわからないのでは」「携帯用HPの内容を充実してほしい」などの意見があり、今後の事業活動に活用していく。</p>	
取組④	<b>生産者の意識改革</b>		
実施主体	八代地域農業協同組合		
	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
実施内容、実施結果	<p><b>セミナー開催・集落座談会の開催</b>  ・時期：10月にセミナー、9月～3月に集落座談会  ・場所：八代市内  ・目的：トレーサビリティ事業の重要性について、マーケティングの専門講師を招きセミナーを開催する(年1回)。また、各集落ごとに、生産者との意見交換を実施する。(6地区×2回)</p>	<p><b>セミナーの開催</b>  結果：1月16日に「知って得する税務」、1月26日「肥料の上手な使い方・土壌の豆知識」、2月3日「農産物マーケティング論」の3回開催。</p> <p><b>集落座談会</b>  結果：集落座談会を全農家戸別訪問に見直し、県、JA、八代市により700戸以上のいぐさ農家を戸別訪問し、マーケティング及びトレーサビリティの必要性を浸透することができた。また、当初計画に追加して、「畳表産地と畳表消費地の交流会」を研修資料としてDVDに編集し集落に配布した。</p>	
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点
	<p>提案団体である熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会は、熊本県内のいぐさ・畳表に係る生産、流通、販売機関及び行政機関等により、平成18年10月に設立されており、本協議会が中心となり実施。(本協議会は19団体で構成、以下は主な実施団体)  1. 八代市役所(取組①、②)  協議会の代表団体。本協議会の事務局として各取組の管理を行う他、関係者間の調整や広報等を担当。地域ブランドの構築、ICTの推進を主担当。  2. 八代地域農業協同組合(取組③、④)  畳表トレーサビリティの実証、生産者の意識改革を主担当。  3. 熊本県い業協同組合(取組①)  地域ブランドの管理を八代市役所とともに担当。</p>		<p>本協議会は既に活動を始めていた組織であり、各取組の実施に組織的に対応し、実施体制に支障は生じなかった。工程会議(八代市、氷川町、JA八代、い業生産販売振興協会、県、アドバイザーの10名で構成)を月1回開催し、取組の進行管理を行い、ほぼ計画通り実施することができた。</p> <p>1. 取組①については、八代市役所を主体にほぼ計画通りの実施ができた。  取組②については、地域の要望により、生産情報提供システムの運用実験の対象を八代市内のいぐさ生産者のみとしていた当初計画を見直し、八代市及び氷川町の全農家に対象を拡げ、八代市役所を主体に実施した。  2. 取組③については、八代地域農業協同組合を主体に実施し、統一産地表示(QRコード付きタグ)の申し込みが計画の30万枚を大きく上回り52.4万枚に達した。  取組④については、集落座談会を全農家個別訪問に見直し、セミナー開催の1回開催を3回開催することに見直した。  3. 取組①における熊本県い業協同組合は、タグの注文・配布及び流通量の把握を担当し、計画の30万枚を大きく上回る52.4万枚を配布した。</p>

(8) 取組により得られた成果	○成果1→ 国産量表の指定割合	H19 69.1%	H20(当初予定していた目標) 80.0%
	H20(実際に得られた成果)		
	国産の指定割合は93.6%(今回の量表の流通実態調査の結果)。但し、国産量表の9割以上を占める熊本県産への指定率は3割弱に止まっており、今後、「くまもと量表」のブランド確立が急務であることが判明した。		
	○成果2→ 生産情報提供システムの登録者数	H19 0戸	H20(当初予定していた目標) 350戸
	H20(実際に得られた成果)		
	当初は八代市内のいぐさ農家のみを対象とし全いぐさ農家の約半数(350戸)を目標としていたが、要望に応じ県下の全いぐさ農家及び八代市、氷川町の全農家に登録を呼びかけることとなるため、登録者数の大幅な増加が見込まれる。		
	○成果3→ 産地イメージアップのアップ(総合評価)	H19 57.9%	H20(当初予定していた目標) 60.0%
H20(実際に得られた成果)			
産地イメージのアップ(総合評価)は56.5%(今回の量表の流通実態調査の結果)。但し、49歳以下の量店経営者には75.9%と好評であり、50歳以上の量店経営者に対する課題が判明した。			
(9) 今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>1. 「くまもと量表」の統一産地表示については、業界からの期待が高く評判も非常に良いことから、今後とも取組を推進していきたい。そのため、今後も消費者や量店の意向を反映したいぐさ農家の意識改革を強力に推進する必要がある。</p> <p>2. 本年度は「くまもと量表」を地域団体商標に登録。今後は更に地域ブランド力の向上を図るため、マーケティング戦略に基づいた展開を行う必要がある。</p> <p>3. ICTの推進は、生産情報提供システムを本年度は運用実験しており、今後は全農家に登録してもらい、活用を拡大していく必要がある。また、メールマガジンによる全国の量店への情報提供も拡大していきたい。</p> <p>4. 本年度は地元の子どもたちに教材の配布や出前講座を実施したが、今後は県内外の子どもたちに「量のよさ」や農業への理解と関心を高める取組に発展させていきたい。</p> <p>5. 全国の量店との交流事業から量表普及品の需要が数多くあることが分かった。量表普及品の安定供給を図るため、コミュニティビジネスの展開を検討する。</p>		
(10) 平成21年度以降の活動の見込み	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>1. 平成21年度の取組</p> <p>①量表のトレーサビリティ推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業範囲拡大(氷川町・あさぎり町・宇城市)</li> <li>・消費者、量店の顧客満足度調査から改善すべき対応策の検討</li> <li>・生産農家の意識改革</li> <li>・生産者情報や現地情報及び残留農薬の検査結果等情報発信の内容検討</li> </ul> <p>②地域ブランド力の維持・向上のための検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家を招いてのセミナー、勉強会の開催</li> <li>・販売戦略、マーケティング戦略の検討</li> </ul> <p>③ICTの構築のための検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト、しょうが、お茶の生産農家を対象に事業範囲を拡大する。</li> </ul> <p>④子ども農山漁村交流プロジェクトによる交流事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家民宿や直売所での農外収入の増加や、地域コミュニティの再生等による活性化を図る。</li> </ul> <p>⑤コミュニティビジネスを展開するための検討・調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を活用した、量表の加工委託事業の検討</li> <li>・直販、加工、販売の研究</li> </ul> <p>2. 平成22年度以降の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹作物のいぐさ・量表、トマト、しょうが、お茶の地域ブランドを構築し、国際・国内競争力の強化を図り、力強い産業をつくりあげていく。</li> <li>・担い手を育成することで、耕作放棄地の発生を防止、美しい田園風景を維持することで、地域間交流の受け皿となる。</li> <li>・地域の農産物を活用したコミュニティビジネスを展開することで、地場産業を立ち上げ、高齢者の雇用機会の創出や、女性起業の創出など生きがいのあるまちづくりを目指す。</li> <li>・ICTを構築し、地域の全農家の携帯電話(希望登録者)に、病虫害や気象警報、市場状況等の情報を的確に提供し、安定生産、安定経営を目指す。</li> </ul>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>1. 量表のトレーサビリティの推進 (H21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的: 「くまもと量表」に対する信頼の向上、需要拡大、H21年度は100万量のタグ付量表の流通を目指す</li> <li>・実施主体: 熊本県いぐさ・量表活性化連絡協議会</li> <li>・内容: 全国量店へのダイレクトマーケティングの実施。量表流通実態調査によるニーズの把握。生産者へのセミナー・集落座談会の開催。</li> <li>・活用を希望する制度: 「地方の元気再生事業」の継続支援(想定金額: 500万円)</li> </ul> <p>2. 地域ブランド力の維持・向上 (H21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的: 地域ブランド力の向上と需要拡大</li> <li>・実施主体: 熊本県いぐさ・量表活性化連絡協議会</li> <li>・内容: 「くまもと量表」のブランドの活用・管理を徹底し定着を図り、販売戦略やマーケティング戦略にもとづいた展開を行う。</li> <li>・活用を希望する制度: 「地方の元気再生事業」の継続支援(想定金額100万円)</li> </ul> <p>3. ICTの推進 (H21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的: 生産の安定化と高品質化、需要拡大</li> <li>・実施主体: 八代市(氷川町、あさぎり町、宇城市、JA)</li> <li>・内容: 生産情報提供システムへの配信登録農家数の拡大、全国の量店に対しメールマガジンで産地情報提供を実施。</li> <li>・活用を希望する制度: 「地方の元気再生事業」の継続支援(想定金額200万円)</li> </ul> <p>4. 子どもたちに「量のよさ」の普及 (H21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的: 子どもたちへの「量のよさ」や農業への理解と関心の向上</li> <li>・実施主体: 八代市</li> <li>・内容: 都市部の児童へのインターネット授業を年4回実施。(うち1回は現地での体験活動)</li> <li>・活用する希望する制度: 都市農村交流対策事業(県事業)、「地方の元気再生事業」の継続支援(想定金額100万円)</li> </ul> <p>5. コミュニティビジネスを展開するための調査・検討 (H21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的: 量表普及品の安定供給、高齢者雇用機会の創出</li> <li>・実施主体: 八代地域農業協同組合、JAやつしろトマト加工研究会</li> <li>・内容: 普及品である量表の製織の共同加工施設を整備し、かつていぐさ農家だった高齢者の雇用機会の創出を図る。また、トマト加工品の販路開拓を行い女性起業の創出を図る。</li> <li>・活用を希望する制度: 強い農業づくり交付金(農林水産省)、「地方の元気再生事業」の継続支援(想定金額100万円)</li> </ul>	

# 日本の畳復活プロジェクト

(熊本県八代市・いぐさ畳表生産地)

— 熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会 —

平成20年度 地方の元気再生事業  
事業実施調書 参考資料

## ◆主な実施取組の内容◆

### 地域ブランドの構築

実施主体:熊本県いぐさ・畳表活性化連絡協議会  
「くまもと畳表」のブランドの構築のために、県では「ひのみどり」「夕風」といった品種を開発したが、栽培・加工には高度な技術を要するため、現地(栽培)講習会(3回予定)・加工講習会(5回)実施し、生産者の品種特性の理解、高品質な畳表の加工技術の向上が図られた。一方、畳表の流通実態調査を全国の畳店を対象に実施した結果、統一産地表示(QRコード付きタグ)については、約7割以上の期待があることが分かった。また、子どもたちに「畳のよさ」を理解してもらうことを目的に、教材の作成(2千冊)や出前講座も行った。



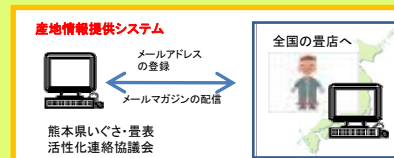
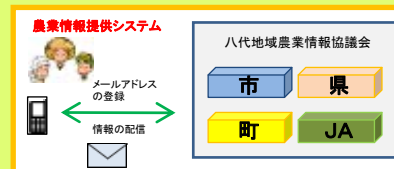
講習会



作成した教材

### ICTの推進

実施主体:八代市  
八代市・氷川町の全農家を対象に、病害虫や気象警報等の生産情報をリアルタイムで登録者の携帯電話に配信できるシステムを構築し、2月から配信登録を推進しており、品質向上等を図っていく。また、全国の畳店に対し産地情報をメールマガジンで発信するためのシステムを2月に構築することで、ブランドPR等の強化が期待できる。

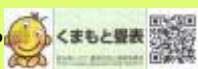


### 畳表トレーサビリティの実証

実施主体:八代地域農業協同組合  
中国産との差別化、産地偽装の防止、消費者に安全・安心を届けることを目的に、H20年現在で207戸の農家の390台の織機にタグ挿入位置自動停止装置を整備し、タグ52.4万枚を配布し実証実験を実施。畳店へのいぐさ農家の派遣、及び3県(山梨、山形、新潟)の県畳工業組合との意見交換により、「統一産地表示は是非推進してほしい」「高齢者は操作がわからないのでは」「携帯用HPの内容を充実してほしい」などの意見を聴くことができ、今後の事業活動に活用していく。



畳表へのタグ挿入



QRコード付きタグ

生産者情報

### 生産者の意識改革

実施主体:八代地域農業協同組合  
集落座談会を全農家戸別訪問に見直し、県、JA、八代市により700戸以上のいぐさ農家を戸別訪問したことにより、マーケティング及びトレーサビリティの必要性を浸透することができた。さらに、当初計画に追加して、「畳表産地と畳表消費地の交流会」を研修資料としてDVDに編集し集落に配布した。また、セミナーを1月16日「知って得する税務」、1月26日「肥料の上手な使い方・土壌の豆知識」、2月3日「農産物マーケティング論」の3回開催し、い業生産者の意識改革を図った。



い業生産者セミナー

## ◆取組実施による成果・今後の展開◆

### 取組実施による成果

○ 地域の基幹産業である「いぐさ・畳表の生産」を復活することで地域の活性化を図るため、中国産畳表に打ち勝つ地域ブランド「くまもと畳表」の普及・浸透に努め、畳表トレーサビリティの実証実験により統一産地表示(QRコード付きタグ)の畳表(52.4万畳)の流通が始動した。  
○ 併せて、消費者や畳店のニーズを見据えたいぐさ農家の意識改革を図るとともに、生産者情報提供システムを構築し、配信登録は八代市のいぐさ農家に限らず地域のトマト・しょうが・茶の農家へと拡大しており、さらにメールマガジンによる産地情報を全国の畳店へ提供するシステム構築も行った。

### 今後の展開

- 100万畳(平成21年度)のタグ付畳表の流通を目指し、畳表トレーサビリティの推進を図る。
- 「くまもと畳表」の定着と展開により、地域ブランド力の維持・向上を図る。
- 生産者情報及び産地情報の提供の拡大のため、ICTの推進を図る。
- 都市部の子どもたちに対象を拡大して、「畳のよさ」や農業への理解と関心の向上を図る。
- 畳表普及品の安定供給に応え高齢者雇用機会の創出のため、コミュニティビジネスを展開するための調査・検討を行う。

